

栗駒山の火山活動解説資料（平成 24 年 11 月）

仙台管区気象台
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。
平成 19 年 12 月 1 日に噴火予報（平常）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・噴気など表面現象の状況（図 1）

大柳（山頂の南東約 20km）に設置してある遠望カメラによる観測では、噴気は認められませんでした。

・地震や微動の発生状況（図 2～3）

栗駒山を震源とする火山性地震及び火山性微動は観測されませんでした。

なお、栗駒山周辺では、2008 年 6 月 14 日に発生した「岩手・宮城内陸地震」の余震域内で地震活動が続いています。

・地殻変動の状況（図 5）

火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。



図 1 栗駒山 遠望カメラの映像（11 月 30 日 07 時 23 分頃）
大柳（山頂の南東約 20km）に設置してある遠望カメラによる。

この火山活動解説資料は、仙台管区気象台のホームページ（<http://www.jma-net.go.jp/sendai/>）や、気象庁ホームページ（<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 24 年 12 月分）は平成 25 年 1 月 10 日に発表する予定です。

※この資料は、気象庁のデータの他、国土地理院、東北大学、独立行政法人防災科学技術研究所のデータを利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図 50mメッシュ（標高）」を使用しています（承認番号 平 23 情使、第 467 号）。

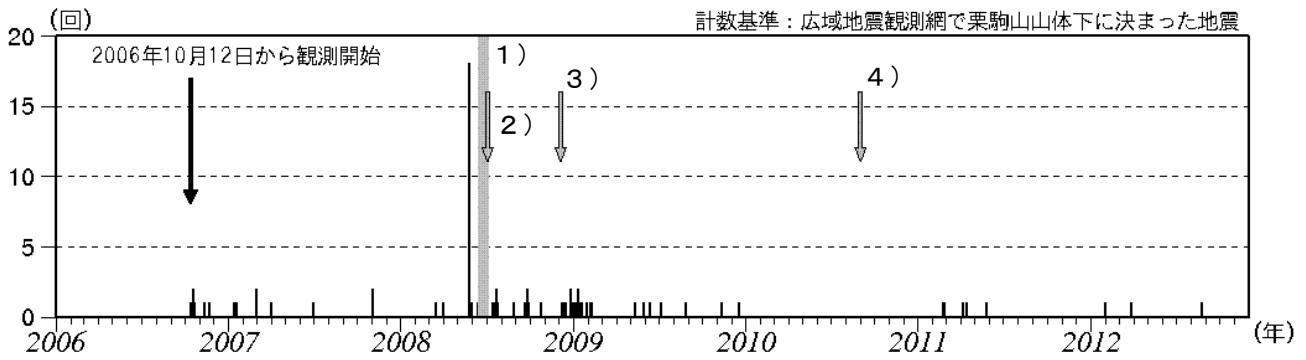


図 2※ 栗駒山 日別地震回数 (2006 年 10 月～2012 年 11 月)

- ・ 2006 年 10 月 12 日から旧耕英観測点 (山頂から南東約 4 km) で観測開始。
- 1) 2008 年 6 月 14 日から 7 月 2 日 18 時 (図の灰色部分) まで「平成 20 年 (2008 年) 岩手・宮城内陸地震」の影響により観測不能となっていました。
- 2) 2008 年 7 月 2 日 18 時から小安 (おやす) 観測点 (山頂から北西約 10 km) で監視を開始。
- 3) 2008 年 12 月 4 日から旧耕英観測点が観測再開。
- 4) 2010 年 9 月 1 日から耕英観測点 (山頂から南東約 4 km、旧耕英観測点とほぼ同じ場所) で観測開始。

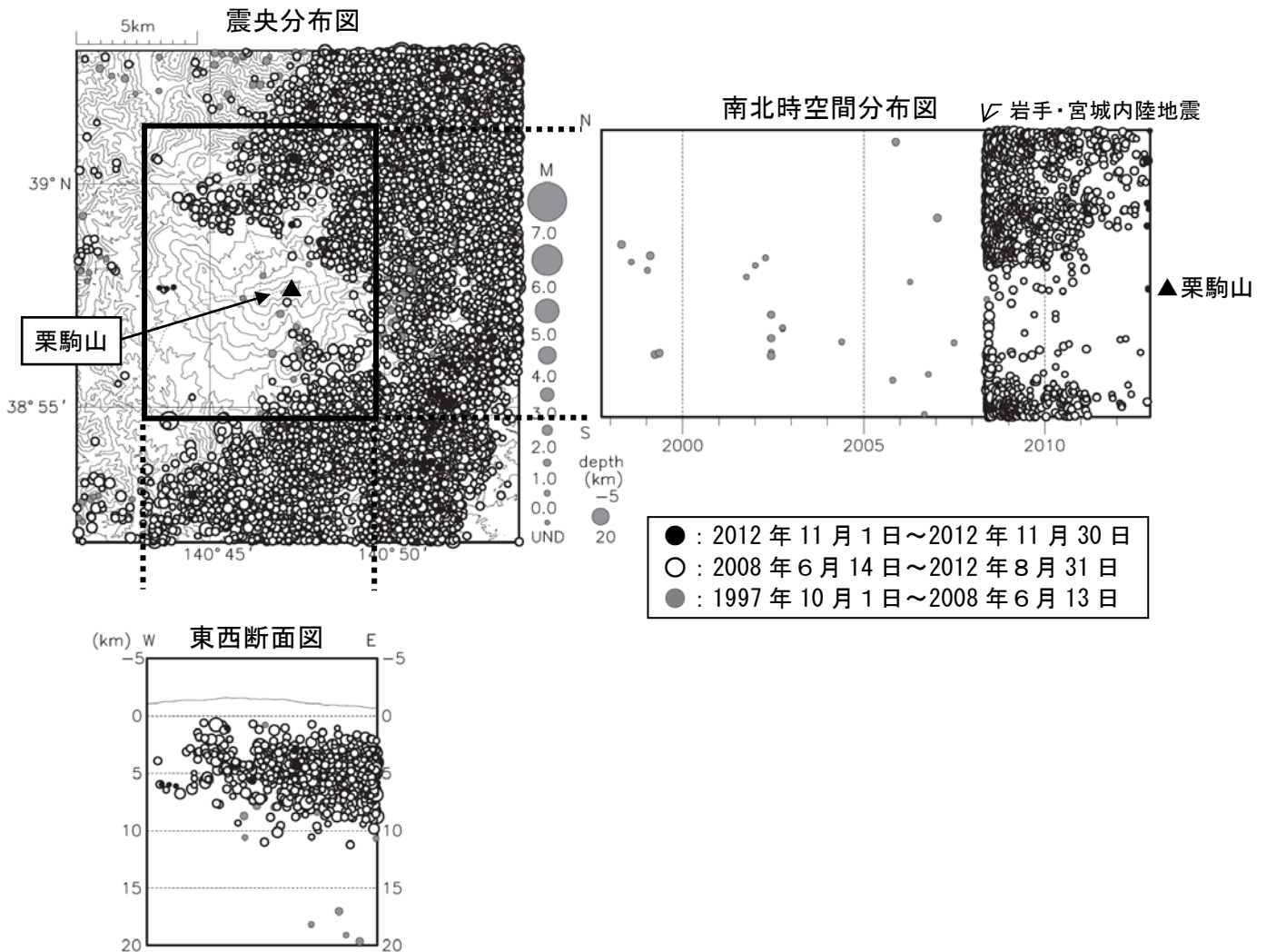


図 3※ 栗駒山 広域地震観測網による栗駒山周辺の地震活動 (1997 年 10 月～2012 年 11 月)

- ・ 2001 年 10 月以降、検知能力が向上しています。
- ・ M (マグニチュード) は地震の規模を示します。
- ・ 図中の一部の震源要素は暫定値で、後日変更することがあります。
- ・ 2011 年 3 月 11 日以降、東北地方太平洋沖地震の活発な余震活動により、小規模な地震を検知できない期間があります。

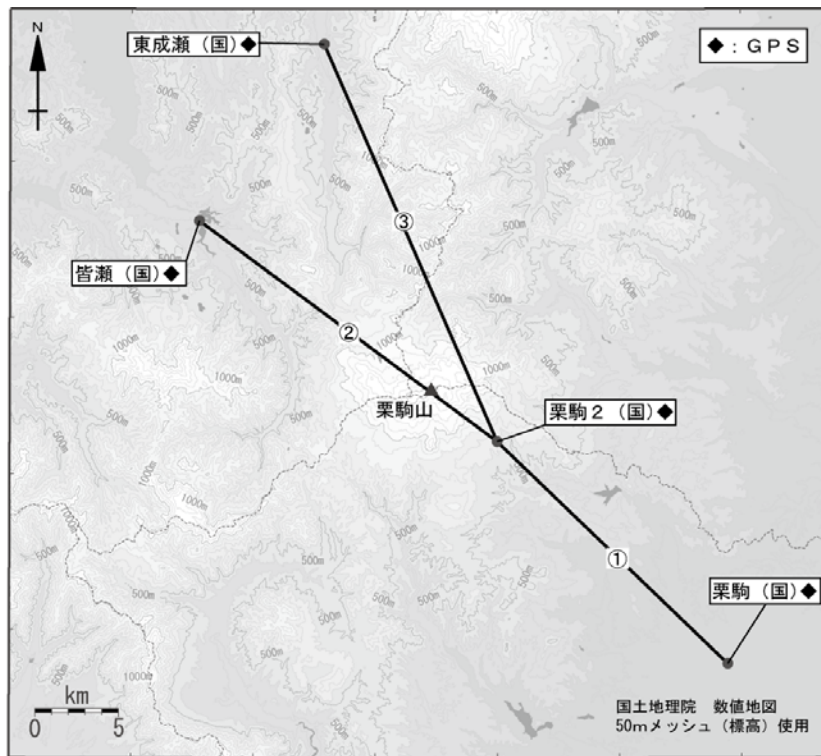


図4 栗駒山 GPS 観測点配置図

小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
(国) : 国土地理院

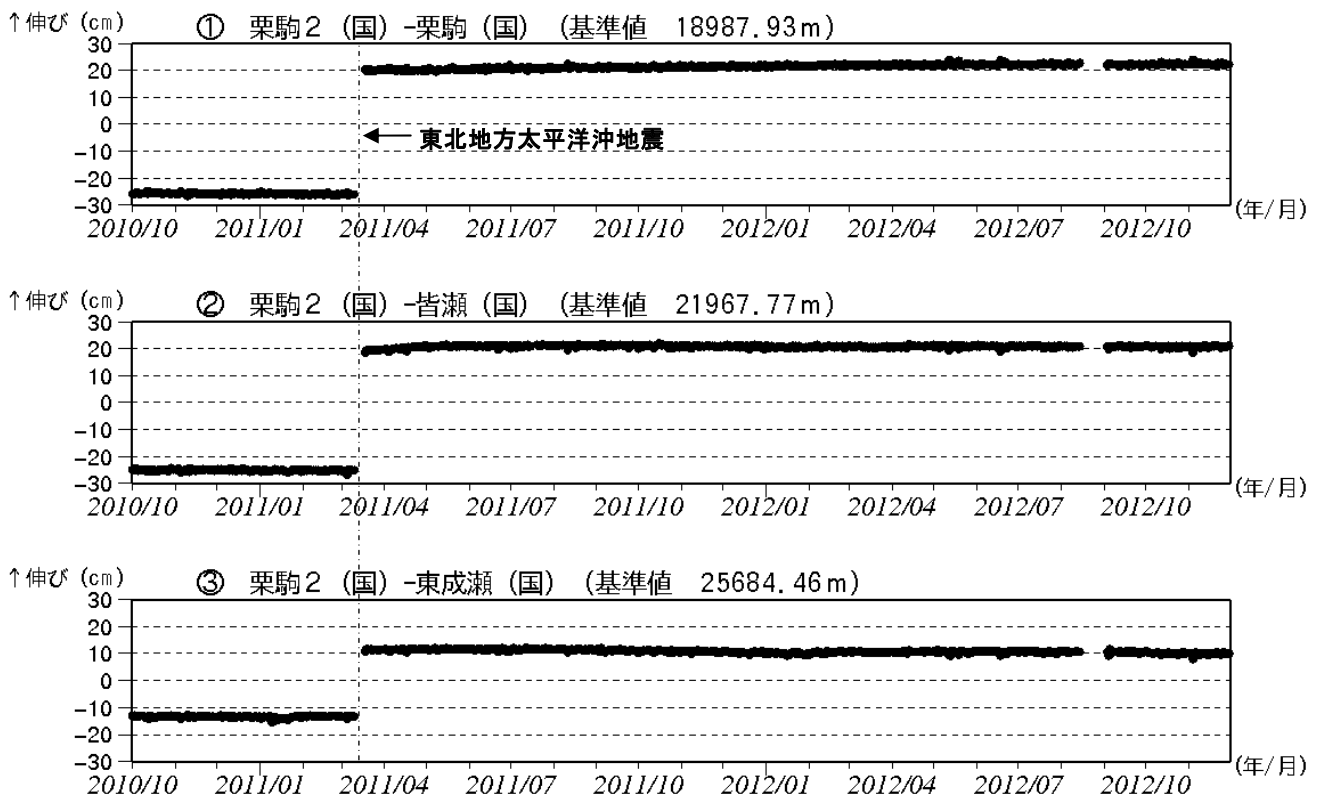


図5* 栗駒山 GPS 基線長変化図 (2010年10月~2012年11月)

- ・2011年3月11日以降の変動は、東北地方太平洋沖地震による影響であり、火山活動によるものではないと考えられます。
- ・①~③は図4のGPS基線①~③に対応しています。
- ・グラフの空白部分は欠測を表しています。

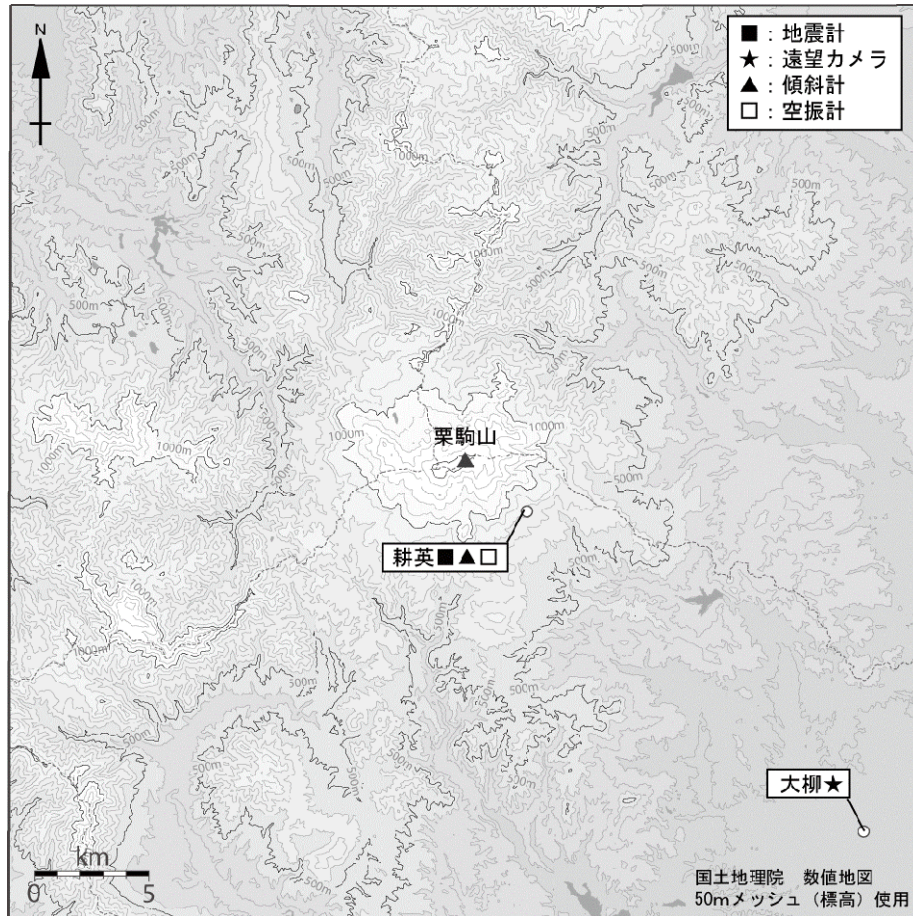


図6 栗駒山 観測点配置図

小さな白丸（○）は気象庁の観測点位置を示しています。